

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの大切さ」(道徳)

富山市立神保小学校 4 学年児童
平成 22 年 11 月 12 日実施

【いのちの先生】

水井 雅子先生
・助産師

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話
- 3 「自分の誕生にかかわる家族の話」の紹介
- 4 いのちのメッセージカードの記入

「いのちの授業」をふり返って

水井先生のいのちの授業のお話を聞いて、私がお腹にいる時、私のためにお母さんが苦勞してくれていたことやお母さんがとても心配してくれていたことが分かり、なんだかとてもうれしい気持ちになりました。私のためにお母さんは栄養や体調に気をつけてくれていたそうです。お母さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

「いのちの授業」をふり返って

自分のいのちは一つしかありません。自分の分身がいるわけではないので、家族（お兄ちゃん、お姉ちゃん、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん）に心配をかけないように、安全に気をつけてすごしたいと思いました。また、ぼくが生まれる前、お兄ちゃんやお姉ちゃんは、「早くいっしょに遊びたいな」と家族のみんなに話していたそうです。

いのちの授業で、両手を合わせていたら、お母さんの温かい手を思い出しました。心臓の音は、「ドクドク」とすごくはっきりと聞こえました。そして、水井先生のお話から、いのちの大切さがよく分かりました。

「いのちの授業」をふり返って

今日、水井先生が「いのちの授業」に来て下さいました。水井先生が「手を合わせてみてください」と言われ、自分の手を合わせてみました。最初は少ずつめたかったけど、手を合わせているうちにだんだん温かくなってきました。

次に、心臓に手を当ててみたら、心臓は「ドクン、ドクン」と動いていました。お腹の中で成長していく赤ちゃんの人形は、一番小さい人形の時はずごく軽かったけど、一番大きい人形はずごく重かったのでびっくりしました。小さい人形と大きい人形の違いがすごかったので、赤ちゃんはお母さんのお腹の中でどんどん大きくなるということが分かりました。

ぼくのお母さんも、お腹が大きくなっていくのが楽しみだったそうです。

「いのちの授業」をふり返って

私は小さな赤ちゃんの人形を抱いてみてとてもびっくりしました。「私も赤ちゃんのときはこんなに小さくて軽かったんだ」と思ったからです。お母さんも、私がこんなに小さいときから食事のことや、歩いていて転ばないように気をつけてくれたと聞いて、「こんなに心配してくれていたんだ」と思ったら、とてもうれしくなりました。

〇〇へ

〇〇がお母さんの子どもでうれしいです。私は〇〇に選ばれたのですね。時にきびしくすることもありますが、それは〇〇のためという思いからです。

これからはいろいろなことがあると思いますが、家族みんな〇〇を支えます。安心してください。大好きな〇〇。ありがとう。

イラスト「心のノート」より



お母さんへ

お母さんが私を産んでくれたことをとても感謝しています。

今日、いのちの授業で、赤ちゃんを産むということがとても大変なことだということが分かりました。ここまで育ててくれてありがとう。

イラスト「心のノート」より



お母さんへ

私を産んでくれてありがとう。

今日のいのちの授業で、人が生まれてくるということは大変だけれども、とてもすばらしいことだと思いました。

私はお母さんの最初の子どもだったから大変苦労したでしょ？今はお姉ちゃんなのでがんばります。産んでくれてありがとう。

イラスト「心のノート」より



〇〇へ

パパとママの子として生まれてきてくれてありがとう。初めての子どもで何をすることもおっかなびっくり…。小さいあなたを守り育てることの大変さ、うれしさを日々感じていました。そんなあなたももう10歳。今では妹弟のよきお姉ちゃんになりましたね。これからはいのちを大切に、日々をみんなと楽しくすごしましょうね。

